

登山 月報



JMSCA

登山月報 第648号 令和5年3月15日発行
昭和45年12月12日第三種郵便物認可（毎月一回15日発行）



冬季エベレストの頂上稜線



ボルダージャパンカップ2023 開催Report	2
第16回山岳スキー競技(SKIMO)日本選手権 黒部・宇奈月温泉大会報告 ..	5
鳥取県大山 令和4年度氷雪技術研修会、 主任検定員A養成講習会、コーチ2養成講習会報告	8
Enjoy Climbing	9
徳島県山岳連盟自然保護委員会のS DGsな活動	10
令和4年度積雪期登山基礎講習会報告	11
JMSCA、表紙のことば、編集後記	12

No.648



今回で18回目となるBJCを2月4日～2月5日、駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場で開催しました。IFSCでは、この競技名をボルダリングからボルダーに変更する検討が2018頃からされ2021より実施。日本でもそれを受けて、今回より名称をボルダージャパンカップとしました。(正式には4月より)

また、COVID19への感染防止も管理範囲を縮小し2020年に近い内容で開催しました。

- ・健康チェック2週間→1週間
- ・PCR陰性確認不要
- ・観客マスク着用であればソーシャルD不要、大声可

大会名：スポーツクライミングボルダージャパンカップ2023

期 日：予選 2023年2月4日(土)

準決勝・決勝 2月5日(日)

会 場：駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場

ボルダージャパンカップ2023 開催Report

実行委員長 村岡正己

【競技】

●女子

予選、準決勝と順位がいろいろ入れ替わるなか、決勝では、伊藤ふたばが全課題1撃完登の快挙で優勝する。全課題無駄のないムーブで登りきる姿は圧巻でした。

特に1課題のTOPホールドへのラウンジで体をピッタリ止めるムーブは、他の選手が苦勞するなか見事な登りだった。勢いに乗った状況で、第2課題のスラブでもバランスを駆使し1撃。

2017年、2020年に続き3回目のBJC優勝を勝ち取る。準決勝1位の野中生萌は、第2課題のスラブで完登を逃し3完登で2位となる。

そして、第1課題9撃、第2課題5撃で完登するなど粘り強い登りを見せた関川愛音だったが、強傾斜ではゾーンに終わり2完登で3位となる。

一方、森秋彩も2完登するが、1課題、第2課題ともにゾーン獲得ができず4位に終わる。青柳未愛5位、松藤藍6位となる。

●男子

決勝。第1課題は、出だし大きく体を振り、飛びながらのシーケンス。3m以上続くムーブでパワーだけでなく、体を止める能力が必要。そこを決勝最初の選手、準決勝6位の榎崎明智が4撃で完登する。後に続く選手がどうこなすか期待するなか、ゾーン獲得も難しい状況

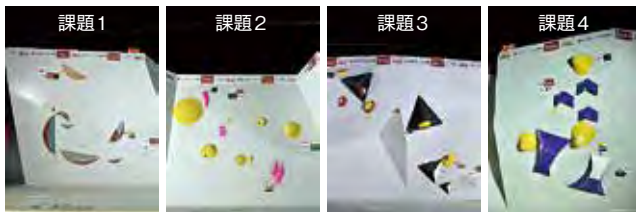


が続く。そして、準決勝1位の榎崎智亜が登場。ダイナミックなムーブを駆使し5撃で完登するところはさすがと感じた。第1課題は、榎崎兄弟のみの完登となる。やや身長が有利に働く課題に感じるところもあるが、しっかり体を止めることができる榎崎兄弟の能力の高さ見られた。

第2課題は、凹角スタートの、足の置き方が難しいムーブが続く課題。榎崎明智、佐野大輝が完登する。第3課題は、スラブでここも榎崎と佐野が完登。第4課題は、かなり厳しく榎崎明智のみがゾーン獲得で終る。男子は、難しい課題の連続だったか、完登率は29% (女子41.6%)となる。そのなか、準決勝6位の榎崎明智が3完登で優勝を勝ち取った。

女子

順位	氏名	BIB	決勝				成績	準決勝 予選	
			課題1	課題2	課題3	課題4		順位	順位
1	伊藤ふたば	W002	T1z1	T1z1	T1z1	T1z1	4T4z/4,4	4	1
2	野中生萌	W001	T3z1	z5	T1z1	T1z1	3T4z/5,8	1	3
3	関川愛音	W015	T9z7	T5z1	z4	z2	2T4z/14,14	6	6
4	森 秋彩	W010	-	T2z1	-	T1z1	2T2z/3,2	5	10
5	青柳未愛	W003	T3z1	z3	z2	z7	1T4z/3,13	3	13
6	松藤藍夢	W005	z5	z2	z1	z6	0T4z/0,14	2	5



【運営】

COVID-19の状況、施設の換気レベルより会場入場数を1500人で設定、チケットングを1000人とする。

●チケットング

販売数・ネット（一般）

	1月27日	1月31日	2月2日	2月3日	2月5日
予選(2/4)	74	175	256	276	299
準決・決勝(/2/5)	280	542	686	706	807

完売率 予選30% 決勝81%

●来場数

	2月4日	2月5日
選手(男)	58	20
選手(女)	53	20
観客	414	958
VIP・視察	13	53
メディア	40	52
スタッフ	94	102
業者	86	102
トレーナー	11	9
合計	769	1316

開場前観戦者(2月5日)列：およそ150人が並ぶ

●Youtube Live

予選 視聴1604 chat(761)
 準決勝 視聴2759 chat(977)
 決勝女子 視聴3345 chat(1546)
 決勝男子 視聴3790 chat(985)

*24時間後視聴(決勝)

男子 2万5千、女子 2万7千

*1週間後視聴(決勝)

男子 5万1千、女子 5万6千

●環境

	2月4日	2月5日
室温	16.7～18.4℃	15.9～18.6℃
湿度	39～45%	35～40%
CO ₂	470～620ppm	458～692ppm
屋外	晴れ2.2～11.2℃	晴れ1.4～12℃

●メディア

2月3日 19社 26名
 記者13名 フォト1名 TV12名

男子

順位	氏名	BIB	決勝				成績	準決勝 予選	
			課題1	課題2	課題3	課題4		順位	順位
1	檜崎明智	M008	T4z3	T3z1	T3z3	z2	3T4z/10,9	6	12
2	佐野大輝	M021	-	T3z3	T2z2	-	2T2z/5,5	3	13
3	檜崎智亜	M002	T5z5	z2	z1	-	1T3z/5,8	1	4
4	通谷 律	M019	-	z9	T9z9	-	1T2z/9,18	4	17
5	井上祐二	M007	-	z2	-	-	0T1z/0,2	5	3
6	藤井 快	M003	-	-	-	-	0T0z/0,0	2	10



2月4日 22社 36名

記者10名 フォト8名 TV18名

2月5日 30社 52名

記者 30社 フォト14名 TV20名

●クリッピング

新聞関係 2月6日 13媒体(読売、朝日、日経、他)

Web 2月3日～2月6日 64媒体

(各新聞、TV関係、他)

TV 2月4日

NHK「おはよう日本」、TBS「報道特集」

NTV「Going!」、TBS「S1」

2月5日

TBS「TBSニュース」

TBS「サンデーモーニング」

TBS「Nスタ」、NHK「サンデースポーツ」

EX「サンデーステーション」

NTV「Going!」、TBS「S1」

TX「みんなのスポーツ」

NHK「おはよう日本」、CX「めざましテレビ」



●メイキング映像

QRコードより、ご覧ください準備、運営の裏側も編集しています。



【スタッフインタビュー】

チーフルートセッター 徳永 一也
ベニュープロデューサー 藤枝 隆介

今回は、新たな競技壁の発想での取り組みを行った、チーフルートセッターとベニュープロデューサーにインタビューしました。

——今回、徳永さんは初めてのチーフルートセッターですね。大会終わってどんな感じですか？

徳永：今回、BJCに関しては初めてチーフルートセッターを任せていただきました。パリオリンピックにも関わってくる重要な選考大会という重圧もあり、かなりの不安もありましたが経験豊富なセッターチームやセット補助してくれた皆さんのおかげで大会は成功に終わったという感じがしました。

——スタッフですが見ていて面白かったです。いろいろチャレンジしたと聞いていますが？

徳永：まずファイナルに関して従来通りの男女8課題を壁にセットしたままおこなうという事をやめ、男女で決勝課題を完全に分けるという試みをおこないました。これは日本の壁の横幅の狭さゆえ、従来通り壁に8課題入れると課題通しの間隔が狭くて横の動きにかなりの制限が入りますし、視覚的にも詰まった感じがして課題も映えず美しくありません。結果的にそれらの問題は解消され、とてもよいファイナルの演出に繋がったと思います。

——そのチャレンジ成功の一部を担ったのが競技壁と思いますが、BJCは壁の設定はどうしているのでしょうか？

藤枝：はい、2016年のBJCから仮設競技壁のデザイン・設計をしてきました。基本的な流れとしては、ヨーロッパでのワールドカップでの競技壁の傾向を把握しベースとなる案を大会前年の11月頃に3Dでモデリング、チーフルートセッターから意見をもらい修正して年末までに形状を確定していくという流れでおこなっています。

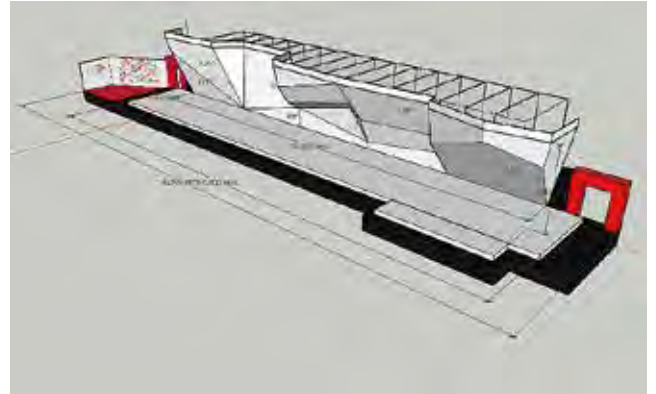
——今回は、どんな感じで取り組んだのでしょうか？

藤枝：今回のBJC 2023ではチーフルートセッターに決まっていた徳永一也さんから幾つか提案があるということで2022年の9月に最初のミーティングをしました。ここで主要な壁の傾斜と配置についての提案があり、通常は施工上の理由などから端に配置することが多いスラブ壁を中心に寄せること、メインの壁はバルジ壁（膨らみを取り入れたデザイン処理の意。クライミングウォールでは太鼓形状を指す。）とすることが決まりま

した。

——なるほど、それを実現するために難しかったところはありませんか？

藤枝：はい、それは、隣り合う壁の変化が大きい配置のため形状的に弱点となりやすい凹角が顕著な構成になることでした。連続する部分の変化が弱点とならずに逆にルートセットしやすく登ってる姿も映えるよう形状や傾きを微調整して提案したのが今回の競技壁となります。



——みていてダイナミックなムーブにつながっているなど感じました。セッターとしての戦術はどうだったのでしょうか。

徳永：大会の内容に関しては、予選から決勝まで通しておおまかな課題のルート特性（フィジカル、バランス、シークエンス、コーディネーション）をぶれずに設定することで得意な分野がある誰にでもチャンスはあり、また総合的にすべてをこなせる選手が勝てるような内容を心掛けました。

——結果いろいろなドラマが生まれたんですね。

徳永：はい、そう感じて頂けると嬉しいです。しかしリスクはありました。大勢の観客の前でかなりの短時間で円滑に男女間ルートのルートセッティングをおこなわなければならないということ、心配ではありましたが、これに関してはあらかじめルートセット経験のある人員をセッター補助員として起用してセッターチーム全員で事前ミーティングをおこなってから手伝っていただいたおかげで円滑に運営することができたかと思います、今後この方式を続けていけば決勝時のセッター補助は必須だと思われます。

——大会運営は、この数年で大きく変わりました。その一つとして、ホールドの変化は大きなポイントですね。ルートセットがうまくいけるよう見直しは必須ですね。

——さて、見せるというところでも変わってきていますね。壁の見せ方についていかがでしょうか？けっこう、デジタル技術取り入れていると感じていますが？

藤枝：課題として、会場もしくは中継で、正面付近から

見ると傾斜を感じにくいという課題がありました。

OnlineObservationdでのAR表現で壁の映像と角度表示を合成したりして伝えるための工夫をしてきましたが、今回は形状の微調整をしていくなかで視覚的なトリックで傾斜を伝えられる手法を発見しました。実際以上に今年の競技壁の傾斜が強いという印象を受けた人が多かったように思います。

——確かに強傾斜に感じました。

——さて、最後に一言あればお願いします。

徳永：今回のルートセット多少、反省点等はあるものの全体を通してはとても良い大会になったと思っています。今大会で活躍した選手たちがワールドカップでも活躍する姿がみれるよう期待しています

藤枝：競技壁のデザインは選手や観戦者のモチベーションやワクワク感を左右する大きな要素のひとつだと思



うので、今後も新しいトライをし続けながら底上げをしてスポーツライミングを盛り上げていく一助が出来たらと考えています。

——ありがとうございました。SCの未来に向けてよろしく願いいたします。実行委員長

第16回山岳スキー競技(SKIMO)日本選手権 黒部・宇奈月温泉大会報告



歓迎レセプション



地元温泉旅館の女将さんによる選手へのエール

山岳スキーは2026年に開かれるミラノ・コルティナダンペッツォ冬季五輪の追加競技として注目される競技である。競技名はS k i (スキー)とMountaineering (登山)を略し「SKIMO (スキーモ)」と呼ばれている。日本選手権は今回が16回目で宇奈月温泉スキー場では昨年に続き2回目の開催となる。雪不足により同スキー場は大会直前までは営業をしていなかったが、寒波により積雪が増え、27日に営業を開始。大会前日には1メートルを超える積雪となり、予定通りの日程での開催となり大会関係者は胸をなでおろした。27日には開会式があ

り、黒部市長をはじめ地元有力者をご出席。地元主催の歓迎レセプションも行われ、宇奈月温泉開湯100周年の幕開けを飾る開催イベントに地元は盛り上がりをもてしていた。

1月28日 スプリント競技(競技1日目)

大会初日は、スピード感あふれる短距離種目のスプリント競技が行われた。前日の降雪により早朝からコース設営に取り組むこととなり、多くのスタッフの協力もあり予定していた開始時刻より若干遅れてのスタートとなった。

出場選手は、8～65歳の男女計37人。シニア男子は25名が出走、予選から準々決勝、準決勝、決勝とすすみ昨年に続き島徳太郎選手(長野県)が優勝した。シニア女子の優勝は日本選手権初出場の田中友里恵選手(北海道)、2位は滝澤空良選手(北海道)3位は上田絢加選手(東京都)。ジュニアは男子1名のみが出走。ユースの男子は中学生の参加で将来に期待したい。ユース女子も1名の出走。今後ユース世代の選手育成が課題である。



スプリント
シニア男子



フィニッシュ後の選手



シニア男子による
フラワー
セレモニー



セレネで開催された
表彰式
スプリント
シニア女子

大会2日目 インディヴィジュアル競技

29日はSKIMOの花形種目、長距離のインディヴィジュアル競技が行われた。この日も前日からの60センチの降雪により早朝から白馬ガイドを中心にコース設営を行い、予定通りスタートに間に合わせることができた。12～65歳の40人が出場。湯けむり漂う温泉街の総湯前から、選手がスキーを担いで一斉スタートする姿はヨーロッパに負けない光景である。

スキーで登るセクションでは前日からの新雪でシールが効かずに苦戦する選手が続出。青空が広がるなか、白く化粧された温泉街と峡谷を望む雪山のなかで、選手たちはテクニカルなコースに難儀しながらも抜きつ抜かれつ激しい争いを繰り広げていた。

シニア男子は最長の5周するコース（距離12.3キロ、総標高差1407メートル）でトップ選手らは1時間半ほどでゴールした。シニア男子1位は島徳太郎選手（長野県）、2位はインディヴィジュアルを得意とする藤川健



温泉街をスタートする選手たち

選手（北海道）、3位は平林安里（長野県）。シニア女子1位は日本選手権初出場の田中友里恵選手（北海道）2位は滝澤空良選手（北海道）3位は上田絢加選手（東京都）。今大会の開催において雪不足の心配もあった中で地元関係者様、黒部市、協賛企業様、富山県山岳連盟に心より御礼申し上げます。



スキーを担いで
スキー場へと
向かう選手たち



シールで山頂に
向う選手



これからのSKIMOへの展望

国内ではまだ、競技人口も少なく認知度も低いため、普及が急務となっている。そのため今回はこの競技の魅力を多くの人に伝えるためSNSなどを活用した取組も行った。そうした活動も定着しつつあるのか、初参加の選手も着実に増えてきている。日本選手権大会が今シーズン国内の初レースとなったが、今後各地で開催されるレースの参加者が増えることに期待したい。この競技は他の競技と違いゲレンデではなく雪山で行われるスポーツであり。そのためレース管理や安全確保のために多くのスタッフが必要であり、実際に天候や積雪状

況など難しい判断を求められることが多々ある。競技スポーツとして発展させるためには安全確保は最優先であり、運営には細心の注意が不可欠になってくる。JMSCAとしても大会組織として万全の態勢で取り組む必要がある。日本は世界でも有数の山スキー天国であることは事実であり、今や世界各地からスキーヤーが日本のパウダーを求めて滑りに来る。山も雪も世界に誇れるも

のを持っている。ゆえにヨーロッパで発祥したこの競技を世界に広げるためにもISMFが日本に求める期待も大きい。いずれは日本の地でワールドカップや世界選手権を開催し、世界のトップ選手の驚くべき滑りを、多くの日本人たちに見てもらいたいと、期待と夢を抱いている。

山岳スキー (SKIMO) 日本選手権実行委員 山田 宏

スプリントレース結果

第16回山岳スキー競技 (SKIMO) 日本選手権 黒部・宇奈月温泉大会
リザルト - スプリント - 2023/1/28

国際規格シニア男子 Senior M

Rank	Bib	Name	Qualifs	Semi Final		Final
				1	2	
Final						
1	1	島 徳太郎	04:27:01	04:21:46		04:30:03 pt1
2	10	遠藤 健太	04:54:31	04:33:27		04:39:10
3	2	平林 安里	04:27:79		04:38:64	04:39:25
4	3	藤川 健	05:01:18	04:36:43		04:54:32
5	5	星野 和昭	04:50:16		05:00:99	05:05:12
6	18	岡 秀行	05:23:23		05:10:59	05:14:84
Semi Final						
7	14	松本 良介	05:24:40	04:51:67		
8	6	小寺 教夫	05:22:16		05:25:51	
9	4	加藤 淳一	05:23:42	04:57:05		
10	19	太田 喜彰	05:48:79		05:26:71	
11	8	國吉 正紀	06:03:95	05:53:19		
12	15	宮津 旭	05:43:91		06:14:81	
Qualifs						
13	16	萩原 悠己	06:16:71			
14	17	日比野 稜	06:25:92			
15	7	上正原 真人	06:45:28			
16	11	土屋 貴洋	06:50:20			
17	9	筑井 祐一	06:56:10			
18	21	吉川 峻平	06:56:45			
19	13	須田 忠明	08:25:80			
20	23	伊藤 秀明	08:42:89			
21	12	鈴木 啓一郎	09:21:05			
22	25	大庭 大	09:26:03			
23	22	津坂 朋宏	09:56:16			
24	24	梅田 俊也	10:28:67			
25	20	水谷冠太	DNS			

国際規格シニア女子 Senior W

Rank	Bib	Name	Qualifs	Final
Final				
1	67	田中 友里恵	05:45:79	05:11:77
2	61	滝澤 空良	05:44:98	05:21:98
3	62	上田 絢加	06:18:77	06:10:58
4	63	古田 紗恵子	06:57:87	07:13:00 pt2
5	64	池田 美貴	07:33:72	07:45:20
6	68	白井 夏海	07:10:68	08:47:20
Qualifs				
7	66	堀部 倫子	07:45:41	
8	65	中山 就実	09:25:66	

国際規格ジュニア男子 U20 M

Rank	Bib	Name	Qualifs	Final
Final				
1	81	宮下 環	08:10:24	07:01:38

国際規格ユース女子 U18 W

Rank	Bib	Name	Qualifs	Final
Final				
1	91	小林 華蓮	06:40:18	06:31:48

18歳以下 U18

Rank	Bib	Name	Qualifs	Final
Final				
1	92	山田朝陽	07:10:64	07:00:95
2	93	笹川 勇太	07:44:43	07:16:54
3	94	山田 陽遂	28:35:49	DNS

インディヴィジュアルレース結果

第16回山岳スキー競技 (SKIMO) 日本選手権 黒部・宇奈月温泉大会
リザルト - インディビジュアル - 2023/1/29

国際規格シニア男子Senior M

Rank	Bib	Name	Time	Pen
1	101	島 徳太郎	1:37:18.40	
2	102	藤川 健	1:37:33.10	
3	104	平林 安里	1:40:59.00	
4	116	加藤 淳一	1:41:03.80	0:01:00
5	103	小寺 教夫	1:43:21.60	
6	105	遠藤 健太	1:45:40.90	
7	119	岡 秀行	1:54:47.00	
8	117	松本 良介	1:54:47.30	0:01:00
9	107	國吉 正紀	1:58:51.60	
10	118	宮津 旭	2:04:09.80	
11	109	上正原 真人	2:05:14.80	
12	108	太田 喜彰	2:10:12.40	
13	106	星野 和昭	2:13:40.40	
14	110	土屋 貴洋	2:13:45.50	
15	123	日比野 稜	2:22:46.70	
16	111	萩原 悠己	2:27:39.80	
17	124	吉川 峻平	2:29:07.10	0:01:00
18	112	倉島 孝行	2:47:43.50	
19	113	佐藤 圭介	2:52:27.40	
20	121	伊藤 秀明	3:09:42.70	
DNF	114	須田 忠明	スダダアキ	
DNF	115	鈴木 啓一郎	スズキ ケイイチロウ	
DNF	120	田中 義朗	タナカ ヨシロウ	
DNF	122	梅田 俊也	ウメダ トシヤ	
DNF	125	津坂 朋宏	ツサカ トモヒロ	
DNF	126	川口 真	カワグチ マコト	
DNQ	128	大庭 大	オオバ ヒロシ	
DNS	127	宮川 朋史	ミヤガワ トモフミ	

国際規格シニア女子Senior W

Rank	Bib	Name	Time	Pen
1	206	田中 友里恵	1:33:27.30	
2	201	滝澤 空良	1:34:39.20	
3	202	上田 絢加	1:40:46.90	
4	208	白井 夏海	2:05:12.70	
5	204	古田 紗恵子	2:06:30.00	
6	203	堀部 倫子	2:07:25.70	
7	207	池田 美貴	2:17:06.20	
8	209	笹川 陽子	2:32:48.50	
9	205	中山 就実	2:41:35.60	

国際規格ジュニア男子U20 M

Rank	Bib	Name	Time	Pen
DNF	301	宮下 環	ミヤシタ タマキ	

国際規格ユース女子U18 W

Rank	Bib	Name	Time	Pen
1	401	小林 華蓮	1:30:02.50	

18歳以下U18

Rank	Bib	Name	Time	Pen
1	402	山田朝陽	1:41:39.70	
2	403	笹川 勇太	1:42:39.70	

鳥取県大山 令和4年度 氷雪技術研修会、主任検定員A養成講習会、 コーチ2養成講習会報告

令和5年2月4日(土)～5日(日)

鳥取県大山において氷雪技術研修会および主任検定員A養成講習会、コーチ2養成講習会が大山自然歴史館および大山南光河原にて開催された。

今回は研修14名、A級主任検定10名、コーチ2養成講習4名、講師4名、鳥取県スタッフ3名の計35名での開催となった。

新型コロナの影響で3年ぶりの開催でした。今年の大山は1月下旬、日本海側では大雪が降り講習には十分な積雪があり、両日とも天候に恵まれ、また、関西、中国、九州からと多くの参加者があり、充実した講習が行われたものと思います。鳥取県山岳・スポーツクライミング協会の皆様には事前準備からご尽力いただきまして誠にありがとうございました。

以下に参加者の代表の感想を掲載いたします。

(指導委員会 野村善弥)

受講生感想

氷雪技術研修会/大山 感想文

日本山岳会 広島支部 井上 紀江

これまで支部内での講習会には幾度か参加しており、私自身それなりの知識は得ているものと思っていた。しかし今回初めて外部のJIMSCA主催の氷雪技術研修会ということで果たして自分たちが教わってきた技術は通用するのか？と不安もあった。

実技講習では堤先生の細かな目配りは時に恐怖を感じるほどの大きな声で容赦なく指摘され、萎縮してしまう場面も。何度か講習会に参加したことのある他県の研修生の方から「先生の技術は信頼に値するので頑張れ」と励まされ、一日目を乗り切った。夕食時に、奇

しくも先生と同じテーブルで、海外登山の話や、岩登りの興味深い話で盛り上がり、鬼教官のイメージがなくなっていた。

二日目は初日とは違って変わり、わからないこと、疑問に思ったこともすぐに質問できる雰囲気が出ており、一つのことをみんなで考え、試してみるという講習会全体が一体感で包まれていた。

初心者でも経験を積んでも基本は同じ。道具の正しい使い方を知り、安全に登るためのノウハウを知っていることが多ければ多いほど雪山はこんなに楽しいのだ！という本来の研修目的が達成できた一日となった。本当にまだまだ学びたいことが沢山あるのに時間で区切ってしまうのが惜しかった。

二日間通して、これまでの技術の確認、最新技術の習得を得て改めて学び直すことが多い研修会となった。支部にも持ち帰り、情報交換、共有をしていきたい。

A級主任養成講習会を受講して

大阪府山岳連盟 宇津 大地

大山での2日間。実技あり座学もあり、そして旅館泊まりという事で所属の会の中だけでは得ることの出来ない技術や他の受講者との実技における意見交換だけでは無く、他の会のおかしな話や苦労話なども聞くことができ検定講習ではあったものの楽しく充実した2日間でした。

「講習の内容は知っていて当然だろう」事のおさらいとの説明でしたが、理解はしていても私的にはやはり説明する難しさを感じました。他人に理解させるだけでなく、どう理解しているかを確認まで出来る知識や経験と観察力の深さがより必要なんだろうと改めて痛感し、またためにもなりました。

講師及び受講生の皆様2日間お世話になりました。



Enjoy Climbing

【連載4】 横山勝丘 いざ南西稜へ 前半

アルパインクライミングでは軽量化が成否を分ける大きなファクターとなるが、そうは言っても一週間近くものあいだ山中で行動し続けるのだから、軽量化にも限界がある。かつて流行した速攻登山なら、5キロにも満たない荷物で駆け上がるなんてこともあったろう。実際、この山をソロで駆け上がったスティーブ・ハウスのクライミングは、荷物を極限まで減らしていなければ不可能だ。

一方、私達の荷物は5日分の食料と燃料がパンパンのザックに入っており、ストラップが私の肩に食い込んでくる。だけどしかたない。長大でテクニカルな山には必要な重さなのだ。極限まで軽量化したスタイルで登るのは、ダブルアックスで駆け上がるようなタイプの登攀であって、単純化された軽量化のセオリーは、今回のクライミングではなんの役にも立たない(と、今は吠えていられるが、いずれはそれも戯言として捉えられるのだろう。それこそが登山の進歩である)。

重荷を背負って数日前にフィックスしたロープを辿るだけでもシンドい。数ストロークごとに背中で大きく息をする。昨晚、ベースキャンプに転がっていた大量のドライアプリコットを調子に乗って頬張りすぎた。朝からお腹が騒がしい。それに、真新しいメインロープが濡れた岩に擦れて、既に外皮が剥けかけている。行動一つひとつの丁寧さが足りていない。

数日前の最高到達点にたどり着く頃には夜も明けて、背後には巨大なK6北壁と抜けるような青空が広がっていた。フィックスしてあった4本のロープをすべてホールバッグに詰め込み、セーので空中に投げ捨てる。捨てているわけじゃない。下降のときに回収するのだ。リリースされたホールバッグは、何度か岩肌に跳ね返りながら、無事に下降予定のガリー内に収まった。ともすれば批判を呼びそうなこの作戦だが、これまで失敗したことは一度もない。もちろんやれる場所は限られているし、かなり計算づくで行なっている。

いよいよクライミングが始まると、カチカチの花崗岩のクラックが出迎えてくれる。リードの鳴海は、雄叫びを上げながら楽しそうにクラックを登ってゆく。しかしフォローの私は重荷に喘ぎ続け、楽しむ余裕は一切なかった。

笑顔は皆無、険しい顔で5.10の壁をフォローする



過去数シーズンのパタゴニアでの経験から、私達は極力荷物を背負っての同時登攀を目論んでいた。そしてそのためには、体格に勝る私が自分自身のクライミングの欲求をまるっきり捨てて、重荷を担ぎながらのフォローに徹する必要があった。しかし思いのほか壁の傾斜が強く、クラックも難しい。肩に食い込む荷物は足取りを重くし、高所ゆえの低酸素に喘ぎ、とてもじゃないけど同時登攀をやろうとさえ思わなかった。グレードはせいぜい5.10程度だろう。でも苦勞する。世のアルパインクライマーは、フリークライミングの尺度では測れないこの能力の重要性をもっと認識したほうが良い。もちろん今の私も然りだが。

初日は何ピッチ登ったか思い出せない。キーワードは、ただひたすら「我慢」であった。日が暮れる頃、標高5500メートル地点になかなかのビバーク地を見つけることができた。目指していた第一岩峰下の雪面までは届かなかったが、明日以降の進捗次第で取り戻すことは可能だろう。

翌日は、初日より複雑な岩稜、というよりは岩壁をエイドクライミング交えながら上を目指す。懸垂下降で右の顕著なコーナーに入り込めたかと思えば、そこにはハングしたクラックがあるのみで、しかもクラックの中は凍っている。慎重にエイドクライミングで越えると、今度は悪いオフウィドウス。それを越えてもなお、ルートファインディングに悩まされる複雑な壁が続く。

リッジクライミングあるあるだが、「簡単に見えて難しい」、「短かく見えて長い」、「単純に見えて複雑」の典型だった。それこそがリッジクライミングの醍醐味といえばその通りなのだけど、殊に初見はその難しさが際立つ。

フリークライミングでも似たような経験はあるだろう。たとえば5.10のセクションは13クライマーには簡単かもしれないが、オンサイトでプロテクションの悪い所を登るのはものすごく躊躇する。一度ロープにぶら下がってムーブを確認すれば何てことはないのに。

そりゃ過去の隊はみんな左から巻くよな、と妙に納得。でも、だからこそやりがいがある。きっと来年またここに来たら、すんなり越えられたりするのだろう。そ

れこそが、オンサイトの難しさであり面白さでもある。

ようやく第一岩峰に着いた頃には、すでに午後。すぐに雪面をトラバースし、コルに向けて2ピッチの空中懸垂下降。これも複雑極まりない。先が見えないって難しい。

コルにたどり着いてようやく、過去にトライした隊のスタート地点に合流となる。ここからは雪のガリーを同

時登攀で登り、なんとか日暮れ前には第二岩峰の取付となる雪原の下に最高のビバーク地を見つけた。真っ平らの岩のテラスで、ハーネスを外してもまったく問題ない。なにより、眼下に広がる氷河とその後ろに広がる山の景色がゴージャスすぎる。ヒマラヤの中にどっぷり浸かる感覚が心地よい。

徳島県山岳連盟自然保護委員会のSDGsな活動

徳島新聞によると、徳島県人口の減少は想定以上に進み、今年中に60万人時代に入るといわれている。国立社会保障・人口問題研究所の推計などでは、徳島県は年少人口、生産年齢人口、老年人口の全年代人口が減り始めており、全国が同じ状況になるのは2040年以降とされ、徳島県は20年早い。SDGs的には、取り残された県といえそうです。

こうした県内事情も影響してか、徳島県山岳連盟の加盟数は山岳会4、スポーツクライミング1、高体連1団体、登録会員数も88人の弱小連盟となっているのが現状です。

自然保護に関する活動としては、2005年頃より急激に増加したシカの食害により下層植生の消滅、スズタケの枯死、モミ等樹木が被害を受けるなど、深刻な状態となったこと、スズタケの消滅により登山道がわかりにくくなって道迷い遭難を起こす事例が増加したことなどにより、学識経験者、自然保護団体、観光、警察、消防、国関係等、山に関係するすべての団体が参加して、「剣山国定公園地域連携協議会」を発足。県西部県民局を事務局として総会を行い、年間の活動方針を決定し、分科会（ニホンジカ被害対策部会、登山道調査部会）において具体的な活動に取り組んでおり、徳島県山岳連盟もこの協議会に参加しています。

シカ被害対策として、剣山周辺では防護柵を設置、キレンゲシヨウマなどの希少植物の保護再生には成功していますが、下層植生の無くなった多くの中腹域では表土が流され裸地化するか、シカの嫌う植物のみが増加して生物多様性が損なわれており、スズタケ等の再生には何年かかるか見通しが立たない状況です。

県内で50,000頭まで増えていたシカの捕獲数が35,000頭くらいに減少した頃から、三嶺～天狗塚稜線のシカ食害に強いミヤマクマザサは足元が見えないくらいに再生してきました。

そこで自然保護委員会独自のSDGs的活動として、「笹を刈払い道を明瞭にすることで、登山道から外れなくなって植生が守れる。登山者が安全に、安心して、快適に登山を楽しめる」と考え、HPにて一般登山者に呼びかけ環境保全活動に賛同してくれる人を募集、2020年には会員9人、一般登山者13人により、更に2021年には企業より助成金をいただき刈払い機を2台購入、会員23人、一般登山者12人により剣山山系の登山道整備（草刈り）を行ないました。（写真参照）

我々のSDGsな活動は限られていますが、今後も剣山国定公園地域連携協議会、自然保護団体と連携し、また独自にやれる範囲の活動を行っていきたいと思います。

（徳島県山岳連盟 自然保護委員長 藤川敏光）

天狗塚周辺



三嶺避難小屋周辺、刈払い前（左）と後（右）



丸石山直下



令和4年度積雪期登山基礎講習会報告

☆令和5年2月10日(金)～12日(日) 国立登山研修所

3年ぶりの開催となった積雪期登山基礎講習会、消防・遭難対策関係12名・大学山岳部関係9名・高等学校関係2名・岳連関係2名の合計25名で開催されました。

今回は様々なジャンルの方が集まり、積雪期技術を生かす職業の方・指導的立場の方・これから指導的立場になる方など、ここで習得した技術がどのように生かされるかが楽しみな方々です。

初日は基本的な雪を知ること“冬山の気象”“積雪と雪崩”“積雪の調査”から始まり、その後、ジャンル別に班別分けされ、基本的な雪山技術から危急時対応の雪洞やロープワーク、そして歩行優先の大品山へ登頂するグループなど、そのグループに何が優先されるかを講師の判断で行われました。

基礎講習ですが、那須雪崩事故から“雪を知る・読む”ことへの重要性がさらに増し、この3日間の講習でしたが、自分たちに今何が一番必要なのかを分かってくれと思います。

以下が、講習を振り返り班別協議した結果です。

- 安全を優先することの重要性→用具選びと歩行技術
- 雪を読んでルート・危険性を判断する重要性
- パッキング・レイヤリングの重要性→危険を回避(安全性)
- 地図読みの大切さ→安全なルートの見極め
- P D C Aの重要性を感じた



- 装備の選び方も重要→準備段階から綿密に
- 雪の性質を知る→すべての判断に重要
- 危険の予想をする
- 風や濡れなどに注意する重要性
- パーティ内での声掛けが重要→危険を共有
- 皆が情報・目的意識を共有することが重要→安全管理

協議結果からも、積雪期登山基礎講習会の基本コンセプトである“雪に親しむ・雪山を歩く・雪山で生活する・雪を知る・雪山での危急時対策などを学び、計画立案から準備(P)そして行動(D)・評価(C)・改善(A)までのP D C Aサイクルを理解する”このことが十分に伝わった講習会でした。(指導委員会 本郷利夫)



- 日 時：令和4年 12月8日(木)
14:20～17:10
- 場 所：J S O S ビル3F会議室2と
Webのハイブリッド会議
- 出席者：亀山、小日向、古賀各副会長、
小野寺専務理事、相良、蛭田、濱田、赤尾、
町田各常務理事、前田、山本、青山、水村、
栗田(途中参加)、安井、山口、六角、水島、
野村、小竹、笹生、原、小高、丸山、中橋
各理事、中島、古屋、佐久間各監事
- 欠席者 丸会長(身内の不幸のため)

1. 開 会

冒頭、小野寺専務理事から理事会審議用書類の提出期限は本来1週間前である。最近では理事会の前日あるいは当日午前中に送付してきている方もいる。事前準備が必要なので、早めに提出していただきたいと伝達した。

2. 亀山副会長挨拶

コロナの影響で対面での会議ができていなかったが、今後、対面での会議の機会が増えることを期待している。

2023年1月8日から9日に理事・監事・委員長・副委員長意見交換会が行われるので参加をぜひお願いしたい。また、1月14日は新春懇談会、2月12日は全国理事長会議が行われるので、加盟団体とより良い交流、協議の場となることを期待している。本日は、議題がたくさんあるが、実りのある協議及び、スムーズな進行をお願いするとともに、来期の予算編成についても、ご理解とご協力をぜひよろしくお願いしたい。

3. 会議成立状況報告

理事数 28名中26名出席、尚、栗田理事は途中参加。監事数 3名中3名出席
(定款第33条、定足数=15名(1/2以上))

4. 議長選出

亀山副会長が議長を務める。(定款第32条)

5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)欠席の会長の代わりに亀山副会長。

ホストは小野寺専務理事が務める。

6. 議 題(注. 審議順に記載)

議案第1号 議事録の承認について

令和4年度第9回理事会議事録の承認について(事前送付済)

異議なく承認された。

議案第2号 役員選考規程の改定について

山口理事が配布資料を基に、前回からの変更点を説明した。

(意見)

監事の項目に、“会社経営の経験等”を入れることについて、一般法人法では記述はなくてもよいのではという意見も出たが、監事候補者の幅を広げるために入れたほうが良いのではとの両意見が出た。

(意見)

外部理事人数の割合を25%以上、女性理事の人数の割合を40%とすると理事を選ぶうえで、足かせになるのではないかと

上位団体(JOC等)から、ガバナンスコード適用の観点から、時期は明言しなくてもよいが、数値目標は入れることという明確な方針があり、数値目標を入れている背景がある。

(質問)

理事72歳と、監事77歳については問題ないか。

(回答)

問題ない。

(意見)

地方の声が聞こえないという問題がPTからもでていたので、“地域に偏りが無いこと”という文言を入れたほうが良いという意見も出たが、委員会の審議の中で決めればよいので、選考のガイドライン等には入れなくてよいのではないかとこの意見もでた。

(意見)

日本代表その他それに準ずる活躍をしてきた者とあるが、その他ではなく、“または”という表現の方がわかりやすいのではないかと。

“その他”という表現は法律上の表現で、意味合いは、上記のとおりであるが、支障がなければこのままの表現にしておきたい。

上記の質疑応答、意見が出たのち、採決を行い、以下の結果となり、役員選考規程は原案通り承認された。

反対0名、棄権1名(望月理事)、賛成24名
議案第3号 新春懇談会(1月14日)と表彰について

小野寺専務理事が配布資料を基に説明した。

今年と同様、午前(S・山岳表彰)と午後(以前からの新春懇談会)に分けて実施することを説明した。同日顧問・参与会も開催する。

午前の部表彰対象者について

山岳各岳連からの推薦 7名

(後日、1名追加)

指導員表彰 3名

日本山岳グランプリ 1名

山岳奨励賞 1名

(S表彰者の候補は、12月9日に候補者名を受領した。)

午後の部表彰対象について

永年参与について 14名

議案第4号 理事・監事・委員長・副委員長意見交換会について(1月8日(日)、9日(月))

亀山副会長が配布資料を基に1月8日(日)のPTに関わる議事進行内容を説明した。当意見交換会の結果、2月9日(木)の理事会で承認を経たうえで、2月12日(日)全国理事長会議で発表する予定。

1月9日(月)の内容は、以下を予定している。

新任の理事・監事向けの教育

組織管理運営規程について

予算管理規程について

ガバナンス、コンプライアンスについて

議案第5号 全国理事長会議開催について

小野寺専務理事が配布資料を基に説明した。

2023年2月12日(日)にハイブリッドで

浜松町で開催予定。

JMSCA理事、監事、委員長は参加。年内に案内を送付予定。

議事に、地方の声(要望)の提出、PTの説明を追加し、相互交流を図る。

議案第6号 予算編成方針について

濱田常務理事が、配布資料を基に説明した。

昨年と比較して以下の2点の変更点がある。

1. 法人管理の固定費は、法人管理として個別に計上・管理する。
2. キャッシュフロー管理のために、月別に支出を把握、管理する。

(全体数値について)

来年の配賦金額

登山 35百万円

S・C 335百万円

独立、調整後 60百万円

今回提案された数値をベースに詳細を策定するが、指摘されている内容を変更し、最終提案とする。

(今後の予定)

12/15 - 1/10: 各委員会ですら策定

12/15: 予算書配布

12/16: P M 18:00から予算書作成方法の説明

12/19: P M 19:30から同上

1/11: 全体集計

2月: 予算案を提出

議案第7号 総合デジタルプラットフォーム登録管理システムについて

蛭田常務理事から配布資料を基に説明した。

今週業者が決定し、本日12/8 AMキックオフ会議を行った。

来週から要件定義作成のための作業を開始し、1月中旬にかけて策定。

詳細は、別途報告予定。

議案第8号 コンパスについて

町田常務理事が、配布資料を基に説明し、次のような意見が出た。

(意見)

登山届提出率30%弱から60%台へ引き上げることを目指すとあるが具体的な方法が必要ではないか。山岳会に入っている人はよいが、入っていない人(約793万人)にどうアプローチして啓発していくのか。当契約をする意味はあるのか。

今回、山岳安全対策ネットワーク協議会定款が策定され、山岳安全対策ネットワーク整備事業に関する契約書の当事者として締結すること及びJMSCAのロゴを使用することの提案がされ、異議なく承認された。

議案第9号 尾形好雄氏参与の推薦について

小野寺専務理事が配布資料を基に説明、尾形好雄氏を参与にすることの提案

(各岳連だけでなく、理事からも推薦可能なため)がされ、異議なく承認された。

議案第10号 ミズノスポーツメントール賞推薦について

小野寺専務理事が配布資料をもとに説明した。推薦のハードルが高いので、今まで対象者はいなかった。各自資料を読んで、候補者がいたら後日連絡するよう伝達した。

議案第11号 山岳スキー競技日本代表選手・協会指定選手の選考について

小竹理事が配布資料を基に説明した。
別表3にある派遣選手選考基準を満たしても「最低8試合以上のレース経験(種目を問わず)を目安としつつ滑降技術その他の経験を総合考慮する」という文面を追加し、順位だけでなく、総合判断する旨をいれている。

この変更について、異議なく承認された。
その後、山岳スキー用HPの作成と経費使用について、大会結果をアナウンスする手段がないので、そういう情報提供のHPを新規作成し、掲載したいという要望の説明があった。

本件について、どれだけの費用がかかり、現行予算をどう使いたいか、具体的な説明文書が必要なこと、予算委員会のメンバーによる検討も必要なので、別途本件で打ち合わせる事となった。

議案第12号 JMSCA加盟団体振興推進PT進捗(中間報告)

- 12月6日(火)に第8回PT会議を開催した。
- PT回答の理事会宛加盟団体名開示に同意の加盟団体数は合計28団体であった。
- 理事・監事・委員長・副委員長意見交換会でのプレゼン資料は、一本化する。また、青山理事がZoom参加にて資料を説明する。
- 分科会4班の討議課題は以下の2題とする。
 - ①国体・SC競技会における加盟団体負担軽減について
 - ②加盟団体会員数減少への対応について

7. 報告

報告第1号 11月度月次報告

相良常務理事が、配布資料を基に各自読んでおくように伝達した。

報告第2号 キャッシュフローについて

濱田専務理事が、配布資料を基に説明した。

報告第3号 日本山岳グランプリについて

日本山岳グランプリを山野井泰史氏に、山岳奨励賞を野村良太氏に授与すること、及び顕彰規程の見直しを常務理事会で決まったことが伝達された。

(以下の報告第4号から第13号については、小野寺専務理事から配布資料を各自読むように伝達された。)

報告第4号 山岳スキーハイパフォーマンステレクター設置について

報告第5号 パリオリンピック事前キャンプ地について

報告第6号 JOC認定競技別強化センターの認定について

報告第7号 国体スポーツクライミング競

技規程の改正について
報告第8号 令和5年度安全登山研修会連絡会議について

報告第9号 UAAA総会報告について

報告第10号 「比婆山国際スカイライン大会」後援について

報告第11号 指導委員(コーチ)の認定について

報告第12号 自然保護委員会からのお知らせ

報告第13号 CJC、SC大会年間計画、ユースフューチャーカップについて

8. その他意見

(1) 小学生、中学生の育成について

11月に行った小学生、中学生の大会が、素晴らしい結果となり、ぜひ広めるべきではないか、また、そのために、お金、人材の問題があるが令和5年度予算編成方針でも、中長期視点で育成を考えるとあるので、JMSCAには、特に資金の問題を解決できないか、検討課題にしてほしい。

ユースフューチャーカップがその一例

で、子供だけでなく、親も一緒に勉強する教育の場となっている。こういう例をもっと各地に展開し、スポンサーも並行して探していきたい。地方でもお金を集めることを心掛ける必要がある。スピードの場合には、アスリートパスウェイプログラム(JSCからの助成金)が一部都道府県に展開され、大会開催の資金となった。若い人にそういう場をより広く提供するという考え方もあるが、他競技で、選手の若年化が進み、競争を加熱させているところとは距離を置いて運営していくということも大事ではないかとの意見もあった。

(2) 八王子WCの件について


広告収入の確保でも難しさが増してきているので、来年の八王子WCの進捗管理を今後もしっかり行ってほしい。

収入や支出の見通し、行政や業者との進捗状況については、実施までまだ時間(3-4か月)があるので理事会等でも必要に応じて報告したほうがよい。

以上

令和4年12月8日 記録 赤尾 浩一

心に山ありて幸いな
山岳写真家・白籙史朗展



ベルト針峰とドリユ(レ・プから)

会 期	2023年4月29日(土)～6月25日(日)
休 館 日	無休
時 間	午前9時～午後5時 (最終入館は午後4時30分まで)
料 金	一般900円(800円)、高校生450円(400円)、中学生以下無料 ※()内は20名以上の団体料金
主 催	公益財団法人 さかた文化財団 酒田市美術館
共 催	酒田市、酒田市教育委員会
企画協力	一般社団法人 白籙史朗保存会
〈本資料に関する問い合わせ〉酒田市美術館	
〒998-0055	山形県酒田市飯森山3丁目17-95
	学芸主任：武内治子
	TEL.0234-31-0095 FAX.0234-31-0094

寄贈図書

(公財)健康・体づくり事業財団 日本山岳協会 やまびこ山協会 山岳スポーツ産業新聞社 (公社)日本山岳スポーツ連盟 (株)山と溪谷社	「健康づくりNo.538」 「会報」2023年新年号 No.262 「愛知県山岳連ニュース」No.447 「スポーツ産業新報」No.2387、No.2388、No.2389 「山岳」No.396 「山と溪谷」3月号 No.1061	会報 会報 会報 新聞 会報 雑誌	山岳写真家白籙史朗 (一財)日本防火・防災協会 日本山岳会 日本山岳写真協会 おいらく山岳会	「岳人」No.909 「地域防災」2023-02 No.48 「山」No.933 「日本山岳写真協会ニュース」第500号 「山行手帖」No.759	情報誌 情報誌 会報 会報 会報
---	--	----------------------------------	--	---	------------------------------

8月号より開始! かすみちゃんのハイキング日記



表紙のこぼれ

エベレスト南西壁上部のイエローバンド下をトラバースして南峰ルンゼに入る。雪の詰まったルンゼ内を8ピッチ登ると南峰のコルに出た。

コルから先は、カンシュン氷河側に巨大な雪庇が張り出し、鎌のような稜線が続く。ヒラリー・ステップは、途中で岩が露出しており、残置ロープを掴んで乗越した。ヒラリー・ステップを越えると物凄い烈風に見舞われた。吹き上がる雪煙でマカールも霞んで見える。指呼の間に頂上が見えるが、烈風に阻まれて遅々として近づかない。一步一步、アイゼンを利かして慎重に登る。1993年12月22日午前10時40分、地球のてっぺんは、我々二人の足元となった。

(写真撮影 尾形好雄)

編集後記

山の会規程あるある

創立60年、会員40人、古参会員もいて年会費はちゃんと払う、どこにでもある山の会の会員規程が新人から指摘。皆さんどう思いますか?ご意見は、下記まで。

hiruta@sip.co.jp

規程: 会山行中は、個人山行を認めない。会山行とは、春、夏、冬合宿、雪上講習、登山訓練およびザイル祭などで、総会で決定される、年間山行のことで年間5~10回程度この主旨は、全員で同じ山行を行うことで一体感を保ち、会員の減少を防ぎ特定のグループが出来ることを防ぐため。

(蛭田伸一)

一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒141-0031
品川区西五反田6-3-23-205
☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

登山月報 第648号

定価 110円(送料別)
予約年間 1,300円(送料共)
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
(毎月1回15日発行)

発行日 令和5年3月15日
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-5843-1631
FAX 03-5843-1635

[山岳雑誌] 山と人、時代をつなぐ

岳人

特別編集

春山2023

発売中

★モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格990円(税込)

年間購読がおすすりめです

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常価格12冊 10,800円(税込) → 年間購読なら12冊 9,900円(税込) (1冊分おトク!)

岳人 U.L. ショルダーバッグ

3色のうち1色をお届け。
※カラーはお選びいただけません。
軽量で丈夫な生地を使用。
登山中のサブバッグに!



限定デザイン

岳人カード

全国2,000カ所以上で
ご優待!



全国の温泉や山小屋など提携施設で
さまざまご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>
<https://www.gakujin.jp/>



全国のモンベルストアでも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

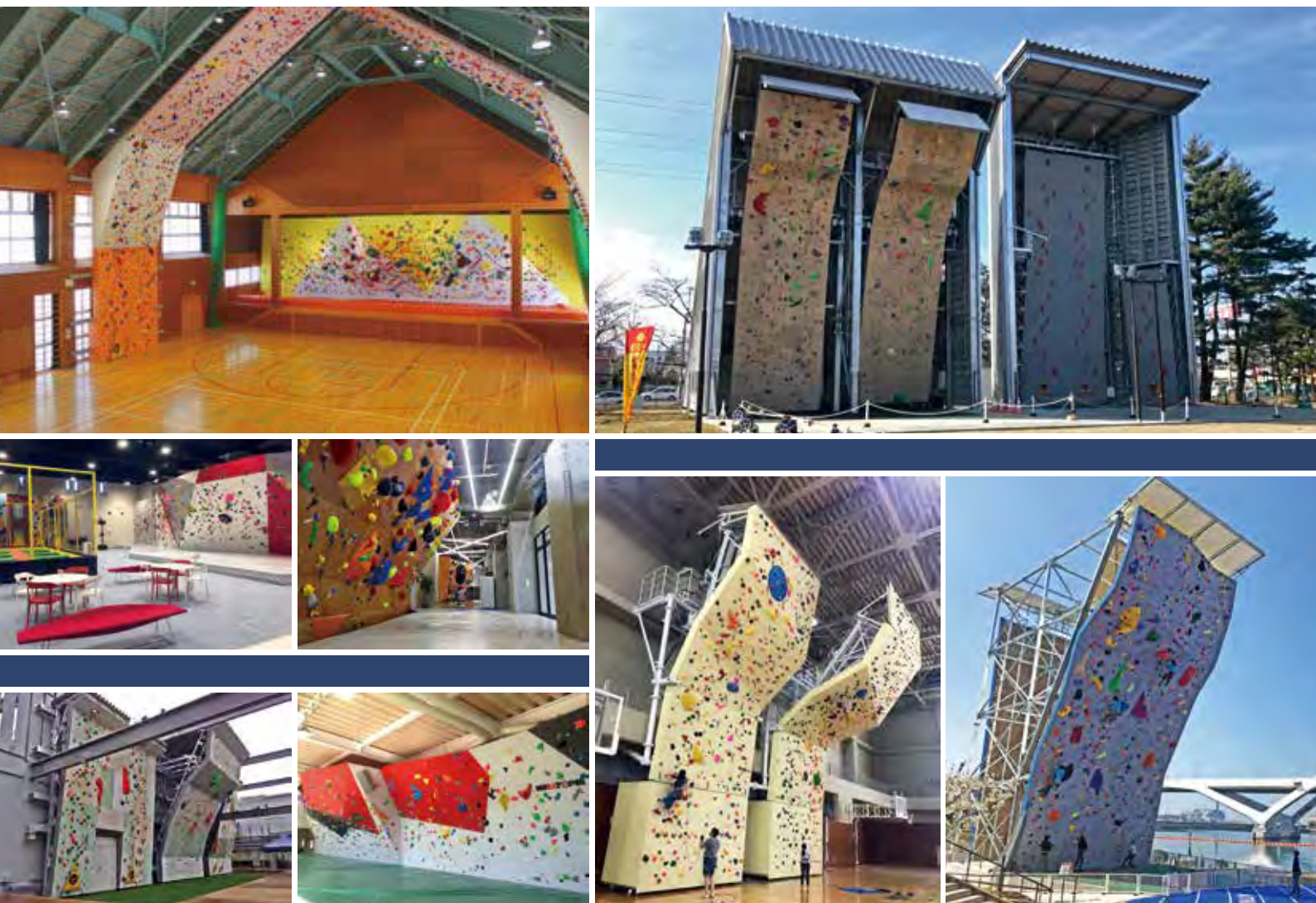
持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング 	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応(自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難捜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院
- 傷害通院
- 傷害手術
- 日常生活賠償

日山協 山岳共済会

〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
<https://sangakukyousai.jp>



「MAMoL マモル」
山を愛する人たちの共済会をー

WEBからもお申込みいただけます